諏訪の景気動向

2019年5月

（2019 年4月末　D･I調査）

2019年5月31日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏 訪 信 用 金 庫

諏訪地方の景気動向 （2019 年 4 月末調査）

「2019 年 4 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 193 社のご協力を得て行った 2019 年 4 月末の「景気動向調査（DI調査）」は、回答全社の「3 ヵ月前」と比べた業況判断DIは△6.7 となった。大幅に悪化した前回調査時（2019 年 1 月末、以下同）の△26.4 より 19.7 ポイント改善した。製造業の業況判断DIは△15.2 で、マイナス水準ながら前回の△33.3 より改善した。非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の同DIは 11.3 で、前回の△10.7 から改善した。「3 ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が△13.8（前回△17.5）とやや改善し、非製造業も 17.7（前回 12.5）と改善し、回答全社では△3.6（前回△8.2）となった。前年同期の勢いより減速し、マイナス水準になっている製造業をプラス水準の非製造業が下支えしている形となっている。

2019 年 4 月は、5 月 1 日施行の日本の新たな元号「令和」が発表され、祝賀ムードが高まった。初の 10 連休となったゴールデンウィークも観光客が活発に動いた。一方で、米中貿易摩擦の長期化や中国経済減速の影響で海外需要が減少し、大企業製造業の輸出や生産が減少した。長野県内の景況も高水準が続いていた業種が悪化傾向となり、先行き不透明感もあって、企業マインドが冷えつつある。

製造業は業況判断DIが 3 ヵ月前に比べて前回の△33.3 から△15.2、受注状況DIも△37.6 から△21.3 と改善しているが、前年同期と比べると業況判断DIが前回の△23.0 から△32.0、受注状況DIは△23.2 から△31.3 と悪化幅が広がっている。受注が堅調で「減速感はない」「親会社や新規取引先からの受注が増加見込みで悲観していない」という企業がある一方で、「リーマン・ショック以来の落ち込み」「米中貿易摩擦で受注が急減している取引先がある」とする企業もあり、取扱製品や取引先の状況によって景況感に差が見られる。米中貿易摩擦の影響は、3 ヵ月前との比較で「多大」と「多少」を合わせて 60.8%(前回 55.4%)の企業が感じている。着地点が見えず、その動きを注視する企業が多い。

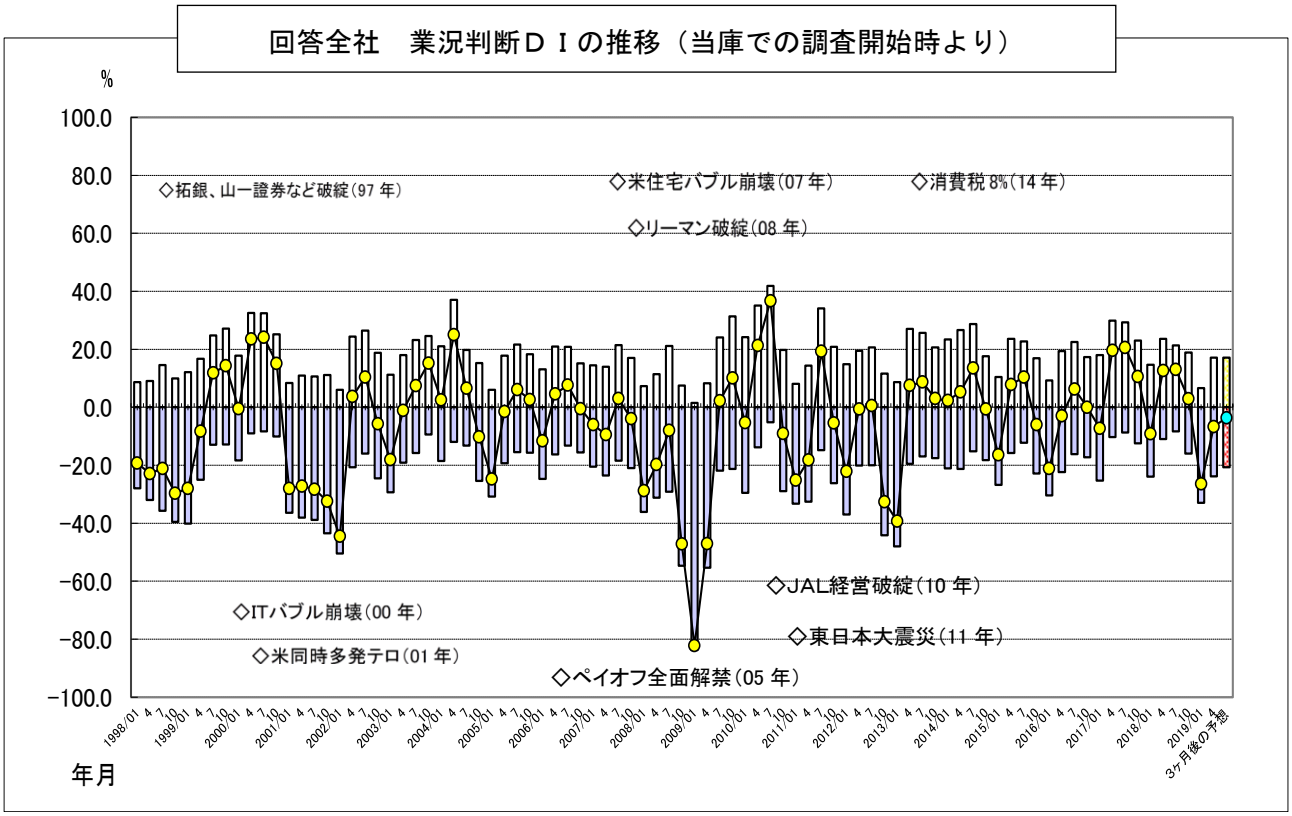
商業は「3 ヵ月前」と比べ、業況判断ＤＩは△3.7 で前回の△4.0 とほぼ同様だが、客単価ＤＩが前回の△7.7 から 11.1、来店客数ＤＩが前回の△15.4 から△3.7 へ改善している。今年のゴールデンウィークは改元効果で、小売店などでは年末年始に似た雰囲気となり、顧客の購入点数が増加した。ただ、「前年同期」と比較すると、業況判断DIは前回の 3.9 から△14.8 に悪化している。一方、「3 ヵ月後」の予想は、来店客数DIが前回の 3.9 から 0.0 へ悪化しているが、客単価DIが前回の 3.8 から 11.1 へ改善し、業況判断DIは前回の 11.6 から 14.8 とプラス幅が広がっている。従業員数の評価は 3 ヵ月前との比較で「不足」とする企業が 38.9%で依然、人手不足が続いている。

観光・サービス業は、「3 ヵ月前」と比較した業況判断DIは 30.7 で、前回の△30.8 から大幅に改善し、「前年同期比」でも 53.8(前回△7.7)と大幅改善した。シーズンの変わり目で、例年通りの動きだが、今年は 4 月に積雪があり、6 市町村すべてに大雪警報が出された。4 月に県内で大雪警報が出されたのは 1998 年以来、21 年ぶりで、観光業の前半は低調だった。しかし、大型連休に入ると一転して盛況となり、各地のホテル、旅館などではキャンセルが少なく、満室が続いた施設が多い。また、国内外へ向かう動きも活発で、特に海外旅行が人気だっ

た。「3ヵ月後」は10連休の反動も懸念されるが、業況判断予想DIは61.5（前回30.8）、客単価DI38.5(同30.8)、宿泊客数DIは 45.1(同 7.7)とプラス水準になっている。

建設業は、「3 ヵ月前」と比べた業況判断DIは 20.0 で前回の△5.5 から改善した。受注状況DIも前回の 0.0 から 15.0 へ改善したが、「3ヵ月後」の業況予想DIは、△5.0 で前回の 0.0 から悪化した。従業員数評価は、3ヵ月前との比較で 33.3%が不足とし、人手不足が続いている。諏訪地方の 2019 年 3 月の新設住宅着工戸数は 130 戸で、前年同月比 22 戸減少（△14.5%）した。2018 年 4 月～2019 年 3 月の 1 年間の累計着工戸数は 1,142 戸で、前年同期比 43 戸増加（3.9%）した。4 月の市町村からの受注工事は合計 53 件 718 百万円で、前年同月比で件数は 7 件増加し、契約金額は 208 百万円増加した。4 月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は 7 件 491 百万円で、前年同月より件数、金額とも増加した。

雇用状況は、2019 年 3 月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を 0.01 ポイント上回り、前月を 0.09 ポイント下回る 1.69 倍となった。9ヵ月ぶりに 1.6 倍台に低下したが、前年同月を上回るのは 8ヵ月連続で、1 倍台の維持は 60 ヵ月(5 年)連続となっている。長野県内は 1.64 倍、全国は 1.63 倍だった。諏訪地方は、新規求人数（全数）が 1,659 人で前年同月比 276 人減少（△14.3%）し、新規求職者数は 795 人で前年同月比 15 人減少（△1.9%）している。産業別の前年同月比の新規求人数は、運輸業で 18.9%、飲食店・宿泊業で 9.9%増加し、その他サービス業で 38.1%減少した。求人の要因別は、「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順となっている。1 件 10 人以上の人員整理は 1 件で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は 37 人で、前年同月より 18 人増加し、前月と同数だった。



業況判断DIの推移 「3ヵ月前と比較して」

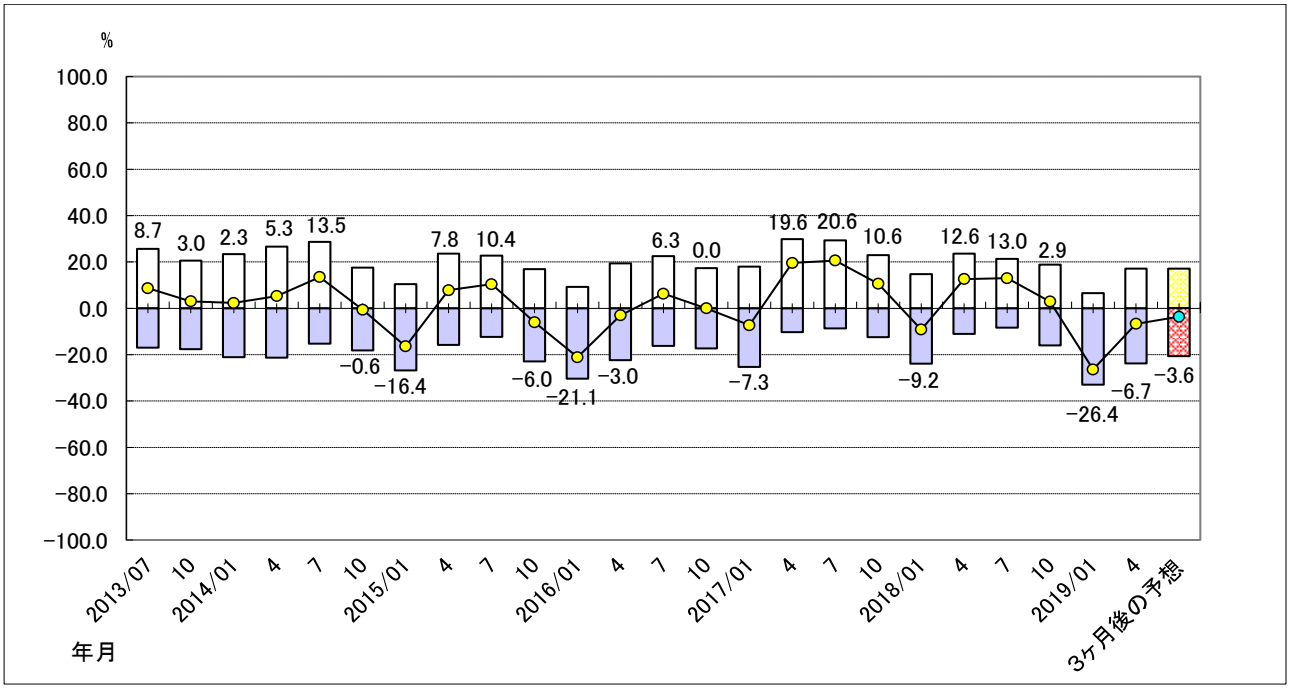
回答全社(193 社)の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業 17.1%、「横這」企業 59.1%、「悪化」企業 23.8%で△6.7となった。前回より好転企業が増加し、悪化企業が減少した。前回調査時点の3ヵ月後の予想DIは△8.2で、予想より改善している。製造業は、「好転」企業が前回の4.0%から13.0%へ増加し、「悪化」企業が 37.3%から 28.2%へ減少し、DI値は前回の△33.3 から△15.2 へ改善した。非製造業は、「好転」企業が前回の 12.5%から 25.8%へ増加し、「悪化」企業が 23.2%から 14.5%へ減少した。内訳は季節要因で観光・サービス業の業況判断DIが 30.7 で前回の△30.8 から 61.5 ポイント改善し、商業は前回の△4.0 から△3.7 へやや改善した。建設業は 20.0 で前回の△5.5 から 25.5 ポイント改善した。

産業別業況表　　（企業数・%）表－1

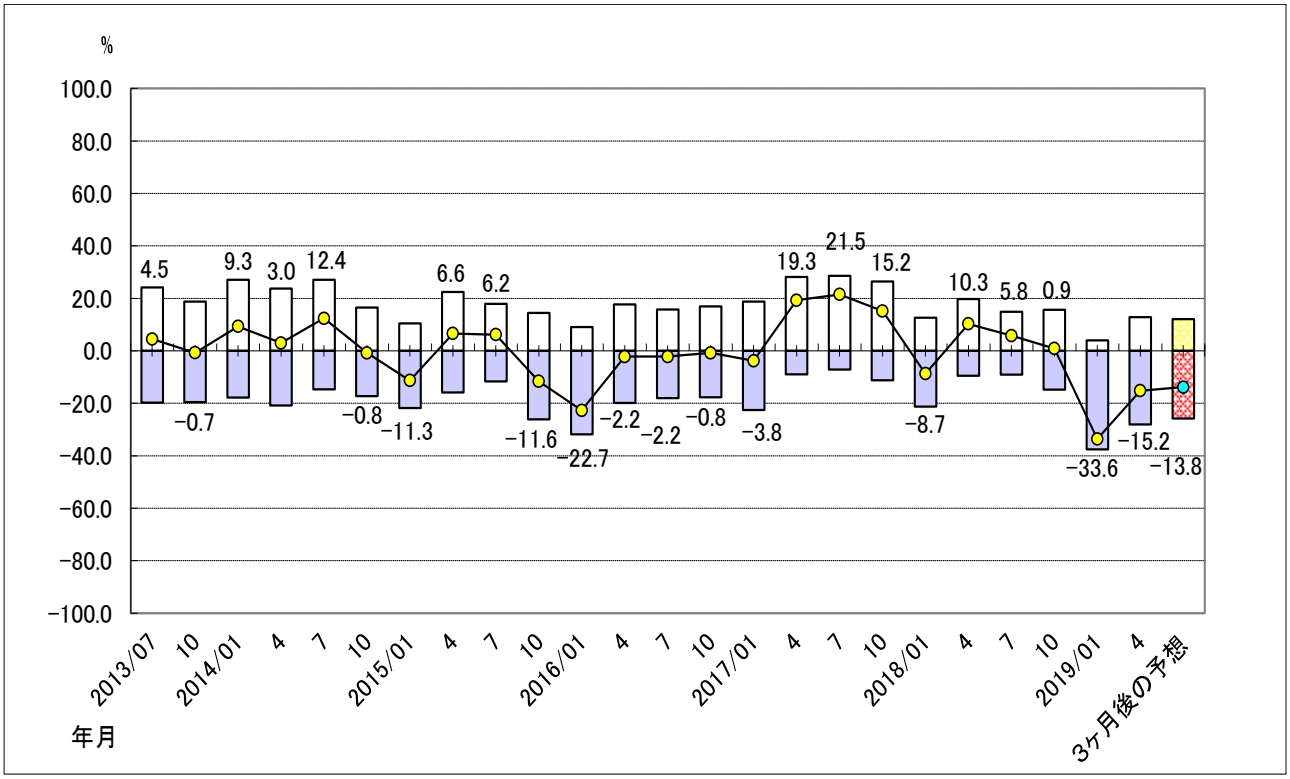
	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全　体	193	17.1	59.1	23.8	−6.7	193	18.1	43.5	38.3	−20.2	193	17.1	62.2	20.7	−3.6
製造業	131	13.0	58.8	28.2	−15.2	131	15.3	37.4	47.3	−32.0	131	12.2	61.8	26.0	−13.8
非製造業	62	25.8	59.7	14.5	11.3	62	24.2	56.5	19.4	4.8	62	27.4	62.9	9.7	17.7
商　業	27	18.5	59.3	22.2	−3.7	27	14.8	55.6	29.6	−14.8	27	25.9	63.0	11.1	14.8
建設業	20	20.0	80.0	0.0	20.0	20	10.0	75.0	15.0	−5.0	20	5.0	85.0	10.0	−5.0
観光・サービス	13	53.8	23.1	23.1	30.7	13	61.5	30.8	7.7	53.8	13	69.2	23.1	7.7	61.5

自社業況判断DIの推移

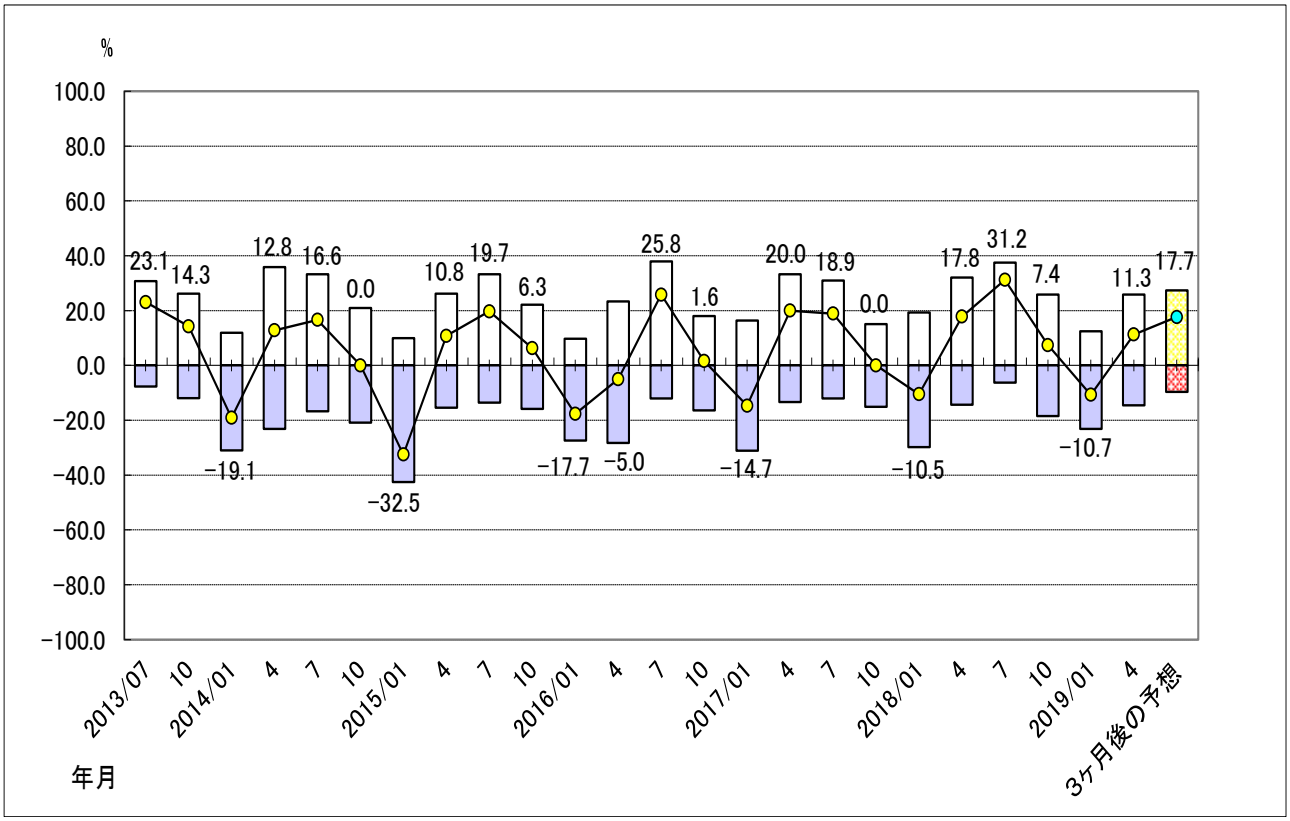
回答全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移　　グラフ－1



●製造業:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移　　グラフ－2



●非製造業:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移　　グラフ－3



産 業 別 景 気 動 向

1.製造業

業況判断DIは「3 ヵ月前」と比べ△15.2 で、前回の△33.3 から改善した。「前年同期比」は、好転企業がほぼ横ばいで、悪化企業が増加したため、△32.0 と前回の△23.0 から 9.0 ポイント悪化幅が広がった。「3 ヵ月後」の予想は△13.8 で、前回の△17.5 から 3.7 ポイント改善した。

設備投資DIは、「3 ヵ月前」に比べて 6.8 で前回の 4.0 より改善した。「前年同期比」も前回の 12.0 から 14.4 へ改善幅が広がっている。先行きの不確定要素が多くなり、設備投資をためらう企業も見られるが、「3 ヵ月後」の予想DIは 6.1 で、前回の 1.6 から改善した。

収益性DIは、「3 ヵ月前比」で△16.0 と前回の△32.5 から 16.5 ポイント改善したが、「前年同期比」は前回の△28.6 から△29.0 へ 0.4 ポイント悪化した。「3 ヵ月後」の予想は△14.5 で、前回の△19.1 から改善している。

業種別（主要 5 業種）の業況判断DIは「3 ヵ月前」と比べて、前回大幅悪化した「精密機械」が△20.0(前回△53.8)、「金属製品」が△22.2 (同△46.6)、「電気機械」が△9.1（同△46.2）、「一般機械」は△22.2（同△25.7）、「輸送用機械」は△20.0（同△28.6）と改善したが、いずれもマイナス水準となっている。

「前年同期比」では、「金属製品」が△30.5（同△26.7）、「電気機械」は△22.7（同△19.3）、「輸送用機械」が△33.4（同」△14.3）、「精密機械」は△33.4（同△23.1）、「一般機械」は△51.9（同△37.1）とすべての業種で悪化している。

「3 ヵ月後」の予想DIは「輸送用機械」△6.6（同△42.9）、「金属製品」△8.3（同△13.4）、「電気機械」△13.6（同△30.8）と改善したが、「精密機械」は△13.3（同 7.7）、「一般機械」が△29.6（前回△22.8）と悪化した。

企業には「3 月は米中摩擦の影響が大きかったが、4 月は中国向け製品にやや回復傾向が見られた。ただ、長続きするかは不透明」「米中貿易摩擦の行方は今後を大きく左右するので注目しているが、変化が激しく、下請け企業は対応に苦労する」「底が見えない」「予想ができない状況が続いている」などの声がある。

製造業　業種別・規模別の自社業況表　　表－2

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
製造業		131	13.0	58.8	28.2	−15.2	131	15.3	37.4	47.3	−32.0	131	12.2	61.8	26.0	−13.8
規模	1～29人	73	9.6	58.9	31.5	−21.9	73	9.6	38.4	52.1	−42.5	73	5.5	61.6	32.9	−27.4
	30～99人	41	19.5	58.5	22.0	−2.5	41	22.0	36.6	41.5	−19.5	41	19.5	58.5	22.0	−2.5
	100人～	17	11.8	58.8	29.4	−17.6	17	23.5	35.3	41.2	−17.7	17	23.5	70.6	5.9	17.6
中分類	金属製品製造業	36	13.9	50.0	36.1	−22.2	36	16.7	36.1	47.2	−30.5	36	13.9	63.9	22.2	−8.3
	一般機械器具製造業	27	7.4	63.0	29.6	−22.2	27	3.7	40.7	55.6	−51.9	27	11.1	48.1	40.7	−29.6
	電気機械器具製造業	22	18.2	54.5	27.3	−9.1	22	27.3	22.7	50.0	−22.7	22	18.2	50.0	31.8	−13.6
	輸送用機械器具製造業	15	6.7	66.7	26.7	−20.0	15	13.3	40.0	46.7	−33.4	15	6.7	80.0	13.3	−6.6
	精密機械器具製造業	15	6.7	66.7	26.7	−20.0	15	13.3	40.0	46.7	−33.4	15	6.7	73.3	20.0	−13.3

①諏訪地方製造品出荷額の 70%を占める中分類 5 業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3 ヵ月前」と比べ△22.2 で、前回調査時の△46.6 から改善したが、「前年同期比」は△30.5(前回△26.7)と悪化した。「3 ヵ月後」の予想は△8.3 で前回の△13.4 から改善した。受注は、3 月に比べると回復した企業が多い。好調だった自動車関連で在庫調整の動きが見られるなど、総体的に大きな変化はないものの、一服感がある。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3 ヵ月前」と比べて△22.2 で、前回の△25.7 からやや改善したが、「前年同期比」は△51.9 で、前回の△37.1 より悪化幅が広がった。「3ヵ月後」の予想も△29.6 で、前回の△22.8 から悪化した。総体的にスマホや工作機械関連は低調な動きが続く。半導体関連も低調だが、一部で増加見込みもある。省力化機械関連は、国内向けは堅調で受注が旺盛な企業もあるが、海外向けで減少傾向が見られる。発注の延期もあり、企業には「一部大手取引先は新規案件に慎重」「大手メーカーの歯切れが悪く、成約が遅れ気味」「商社が弱腰」などの声が出ている。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3 ヵ月前比」で△9.1 と前回の△46.2 から改善し、「前年同期比」は△22.7 で前回の△19.3 から悪化した。「3 ヵ月後」の予想は△13.6 で前回の△30.8 から改善した。中国の景況に大きく左右されるプリンターは、インクジェット式の生産が落ち込んでいるもよう。中国国内の 5G整備の基地局用セラミックス基板は好調な動きが続いている。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3 ヵ月前」と比べて△20.0 で、前回の△28.6 からやや改善したが、「前年同期比」は△33.4 で、前回の△14.3 から悪化した。「3ヵ月後」の予想は△6.6 で、前回の△42.9 から改善している。自動車関連はメーカーや取り扱い部品によって差があり、強い伸びではないが、総体的には堅調に推移している。ただ、年間為替想定レートに対する米中貿易摩擦の影響を懸念する企業もある。船外機は依然、欧州向けが好調に推移している。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3 ヵ月前」と比べて△20.0(前回△53.8)と改善したが、「前年同期比」は△33.4(前回△23.1)と悪化した。「3ヵ月後」の予想は△13.3(前回7.7)で悪化予想が上回った。光学部品は、自動車のセンサーレンズ類は堅調だが、半導体や通信機器関連は、減少傾向が続いている。計量器は輸出用の産業機械向けが低調な動きとなっている。

②規模別業況

業況判断DIは、「3 ヵ月前」と比べて「1～29 人」規模は前回の△36.5 から△21.9 へやや改善し、「30～

99 人」規模は前回の△27.9 から△2.5 へ改善した。「100 人以上」規模も前回の△35.0 から△17.6 へ改善した。「前年同期比」は「1～29 人」規模が前回の△35.0 から△42.5、「30～99 人」規模は前回の△9.3 から△19.5、「100 人以上」規模は、前回の△15.0 から△17.7 へそれぞれ悪化した。一方、「3 ヵ月後」の予想は、「1～29 人」規模が前回の△30.1 から△27.4 へ改善し、「30～99 人」規模は前回の△2.3 から△2.5 とほぼ同様で、「100 人以上」規模は前回の△10.0 から 17.6 へ改善しプラス水準となった。

③受注状況DI（規模別、業種別）

製造業全社の「3 ヵ月前」と比べた受注状況DIは「増加」企業 15.3%、「減少」企業 36.6%で△21.3 と、前回調査時の△37.6 から改善した。一方、「前年同期比」は△31.3 で前回の△23.2 から悪化した。「3 ヵ月後」の予想は、前回の△16.0 から△9.9 へ改善した。

規模別の受注状況DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29 人企業」は△23.3 で、前回の△43.6 から改善した。「30～99 人企業」も△14.6 で、前回の△30.2 から改善し、「100 人以上企業」は△29.4 で前回の△35.0 から改善している。「前年同期比」は「1～29 人企業」が△42.5 で前回の△32.2 から悪化し、「30～99 人企業」は△24.4 で前回の△23.2 から悪化、「100 人以上企業」も 0.0 で前回の 5.0 から悪化した。「3 ヵ月後」の予想は「1～29 人企業」が△23.3 で前回の△20.9 から悪化したが、「30～99 人企業」は 4.8 で前回の△6.9 から改善し、「100 人以上企業」も 11.8 で前回の△20.0 から改善している。

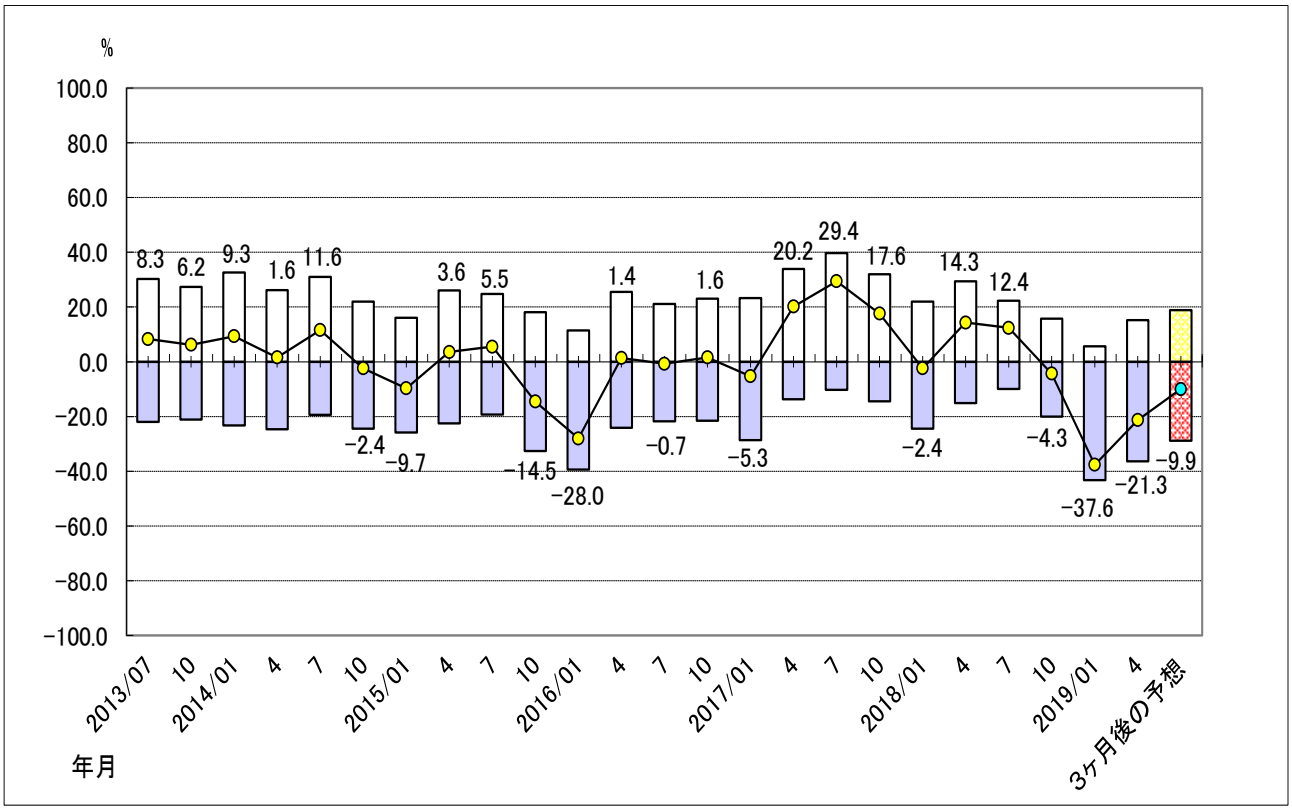
業種別（主要 5 業種）の「3ヵ月前比」は、「輸送用機械」は前回の△28.6 から△26.6、「精密機械」が前回の△38.5 から△6.7、「一般機械」は△34.3 から△29.6、「金属製品」が△53.3 から△30.5、「電気機械」は△46.2から△13.7 へそれぞれ改善した。「前年同期比」では、「金属製品」が△33.4から△30.5、「輸送用機械」が前回の△7.2 から△6.6 とやや改善したが、「電気機械」は△15.4 から△18.1、「精密機械」は△38.5 から△40.0、「一般機械」が△34.3から△59.3 へそれぞれ悪化した。「3ヵ月後」の予想は、「一般機械」が△14.3 から△14.8 とほぼ同様で、「精密機械」は△13.4 で前回の 0.0 から悪化し、「輸送用機械」は△42.9 から△20.0、「金属製品」は△13.3 から△11.1、「電気機械」は△34.7 から△9.1 へ改善した。

業種別・規模別受注状況表　　表－3

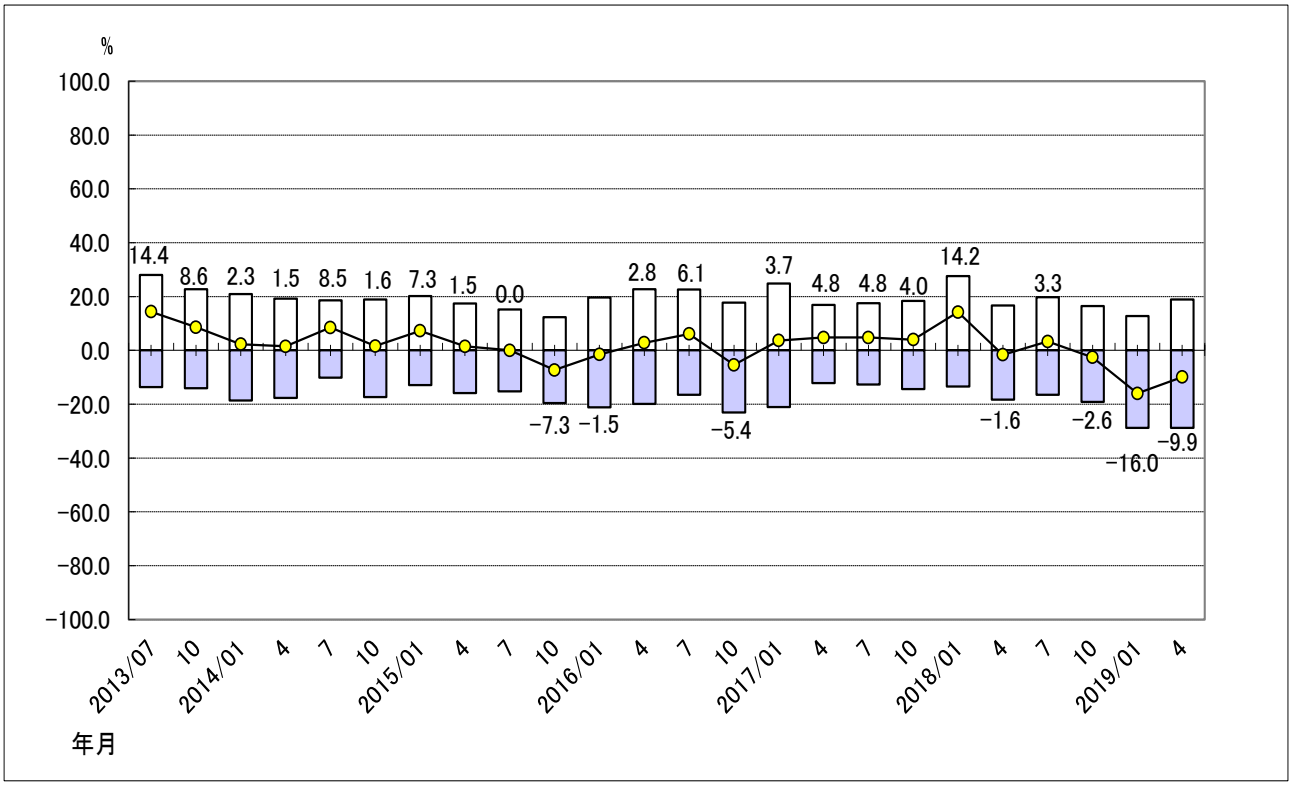
		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		131	15.3	48.1	36.6	−21.3	131	17.6	33.6	48.9	−31.3	131	19.1	51.9	29.0	−9.9
規模	1～29人	73	15.1	46.6	38.4	−23.3	73	13.7	30.1	56.2	−42.5	73	12.3	52.1	35.6	−23.3
	30～99人	41	17.1	51.2	31.7	−14.6	41	17.1	41.5	41.5	−24.4	41	26.8	51.2	22.0	4.8
	100人～	17	11.8	47.1	41.2	−29.4	17	35.3	29.4	35.3	0.0	17	29.4	52.9	17.6	11.8
中分類	金属製品製造業	36	13.9	41.7	44.4	−30.5	36	16.7	36.1	47.2	−30.5	36	16.7	55.6	27.8	−11.1
	一般機械器具製造業	27	7.4	55.6	37.0	−29.6	27	3.7	33.3	63.0	−59.3	27	22.2	40.7	37.0	−14.8
	電気機械器具製造業	22	22.7	40.9	36.4	−13.7	22	36.4	9.1	54.5	−18.1	22	22.7	45.5	31.8	−9.1
	輸送用機械器具製造業	15	6.7	60.0	33.3	−26.6	15	26.7	40.0	33.3	−6.6	15	6.7	66.7	26.7	−20.0
	精密機械器具製造業	15	20.0	53.3	26.7	−6.7	15	6.7	46.7	46.7	−40.0	15	13.3	60.0	26.7	−13.4

製造業の受注状況DIの推移

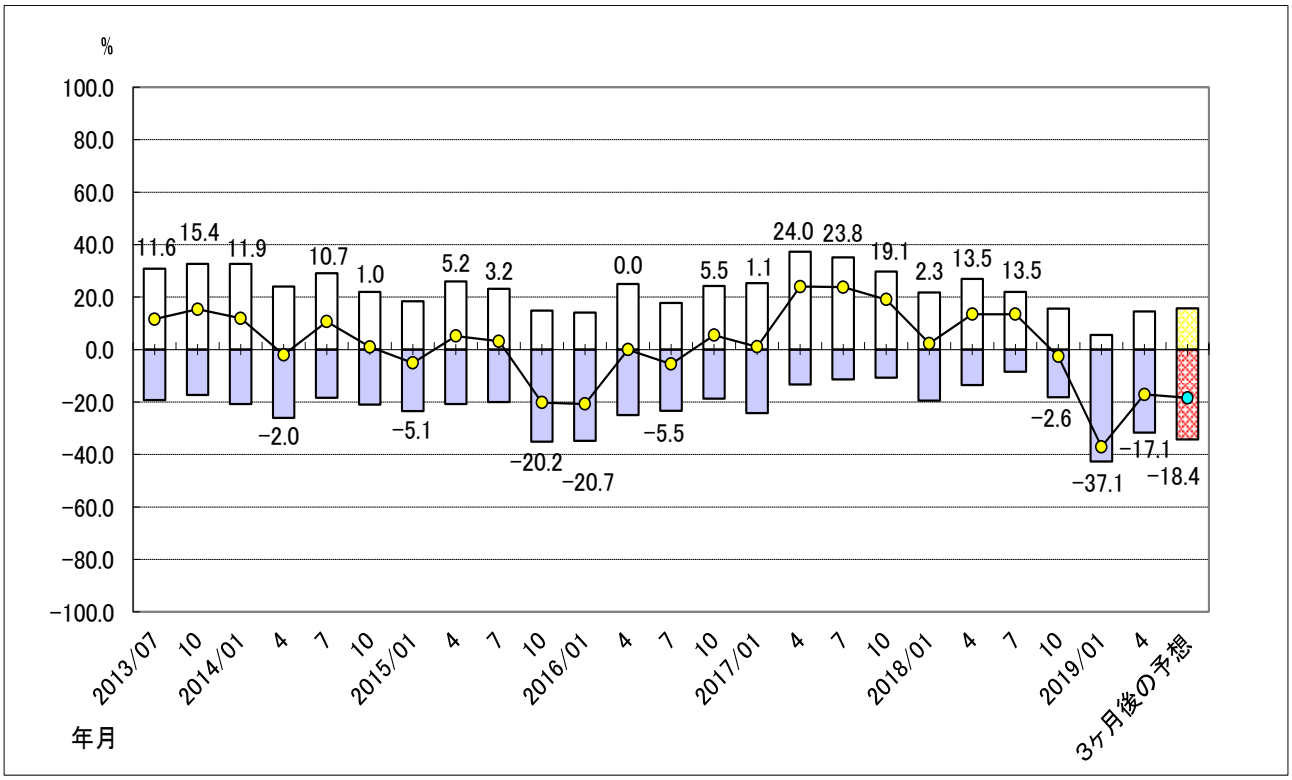
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移　　グラフ－4



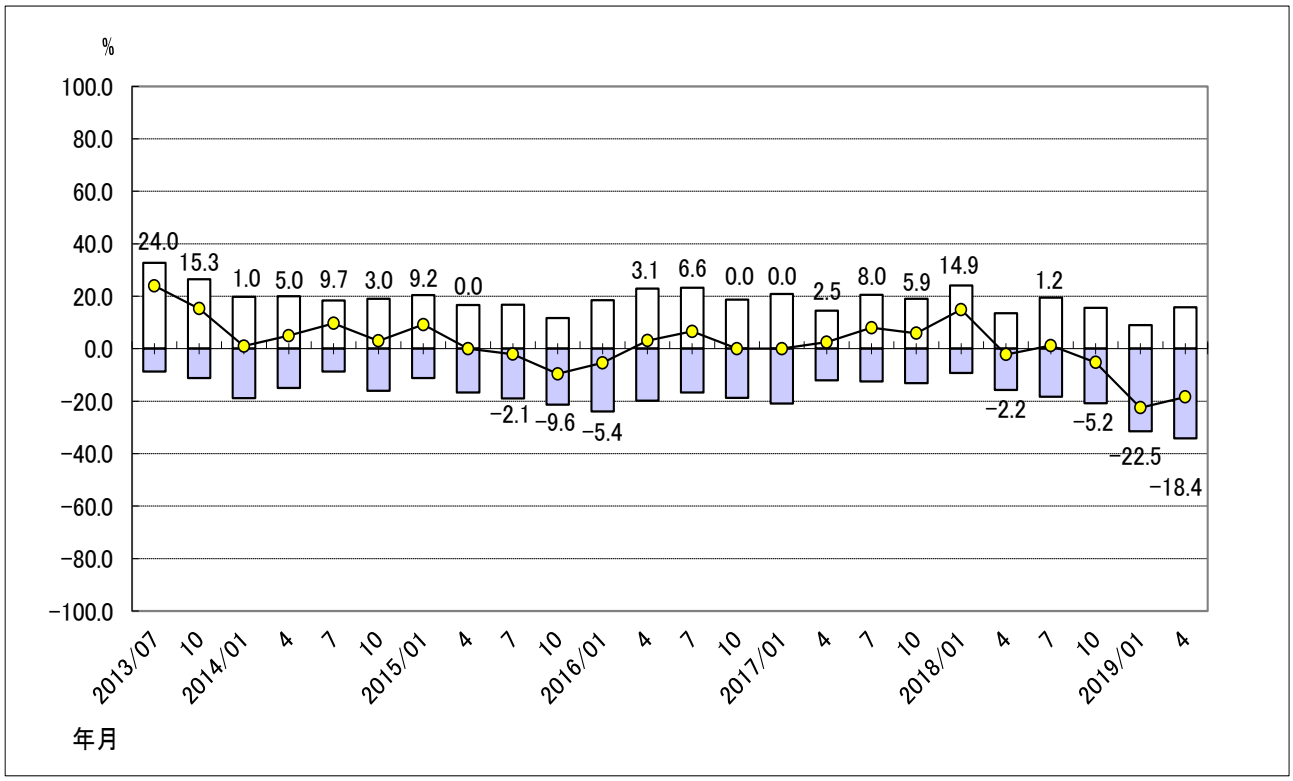
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移　　グラフ－5



●製造業 主要５業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移　　グラフ－6



●製造業 主要５業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移　　グラフ－7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

3ヵ月前、前年同期、3ヵ月後の予想とも収益性DIが前回より改善している。4月は前半の天候が悪く、統一地方選も重なり、小売店や飲食店などの客足が伸びなかったが、10 連休前から一転、来店客が増加した。改元効果も見られ、皇室や元号関連製品の売れ行きが伸び、神社周辺などの店舗もにぎわった。

●飲食店　前半は低調だったが、GWは観光客の来店もあり好調だった店舗が多い。食材価格は高止まりしている。カード支払いの顧客が増えているという声もある。

●自動車　諏訪地方の 4 月の車庫証明件数(軽自動車除く)が 919 件で、前年同月比では 31 件増加(3.5%)した。

●書店　改元に伴い、天皇、皇后陛下、新元号の関連本の売れ行きが伸びた。年度の変わり目で、文具、参考書、辞書の売上も好調だった。

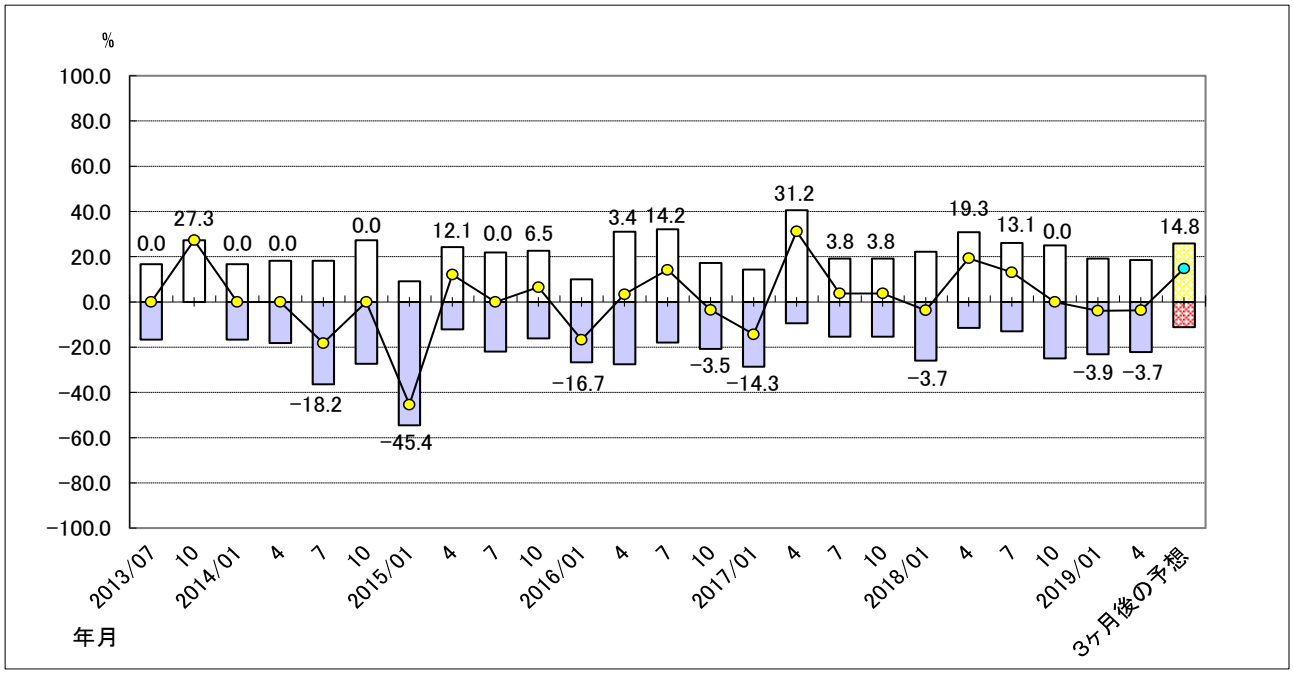
●ガソリンスタンド　寒の戻りで灯油販売は例年より増加した。県外からの観光客が多かったが、価格が高止まりし、給油の数量指定も多かった。

●野菜直売所　4 月前半は悪天候で山菜の生育が遅く、来店客数、客単価などが伸び悩んだが、大型連休中は盛況な入り込みとなった。

業況、客単価、来店客数　表－4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業　況	27	18.5	59.3	22.2	−3.7	27	14.8	55.6	29.6	−14.8	27	25.9	63.0	11.1	14.8
客単価	27	18.5	74.1	7.4	11.1	27	18.5	77.8	3.7	14.8	27	22.2	66.7	11.1	11.1
来店客数	27	22.2	51.9	25.9	−3.7	27	22.2	51.9	25.9	−3.7	27	22.2	55.6	22.2	0.0

●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移　グラフ－8



② 観光・サービス業

諏訪地方の４月の天候は、降水量は平年より少なかったものの、平均気温は上旬を中心に寒気の影響があり平年より低くなった。時期外れの降雪はあったものの、各地の宿泊施設は初の10連休を中心に、総体的に宿泊客が増加した。収益性DIは前年同期比 23.1 で、前回の△23.1 から大幅改善した。本格的なサマーシーズンになる３ヵ月後の予想も 38.5 で、前回の 15.4 から改善幅が広がっている。

●上諏訪温泉　2～4 人の個人客、5～14 人の小規模団体が前年を大幅に上回った。関東、東海方面からの観光客の入り込みが多い。10 連休中は各施設ほぼ満室だった。インバウンドは前年比減少した。黒部立山アルペンルート観光の台湾客の減少が影響している。

●下諏訪温泉　GWは満室状態だった施設が多い。宴会は選挙や景気停滞感で減少した。

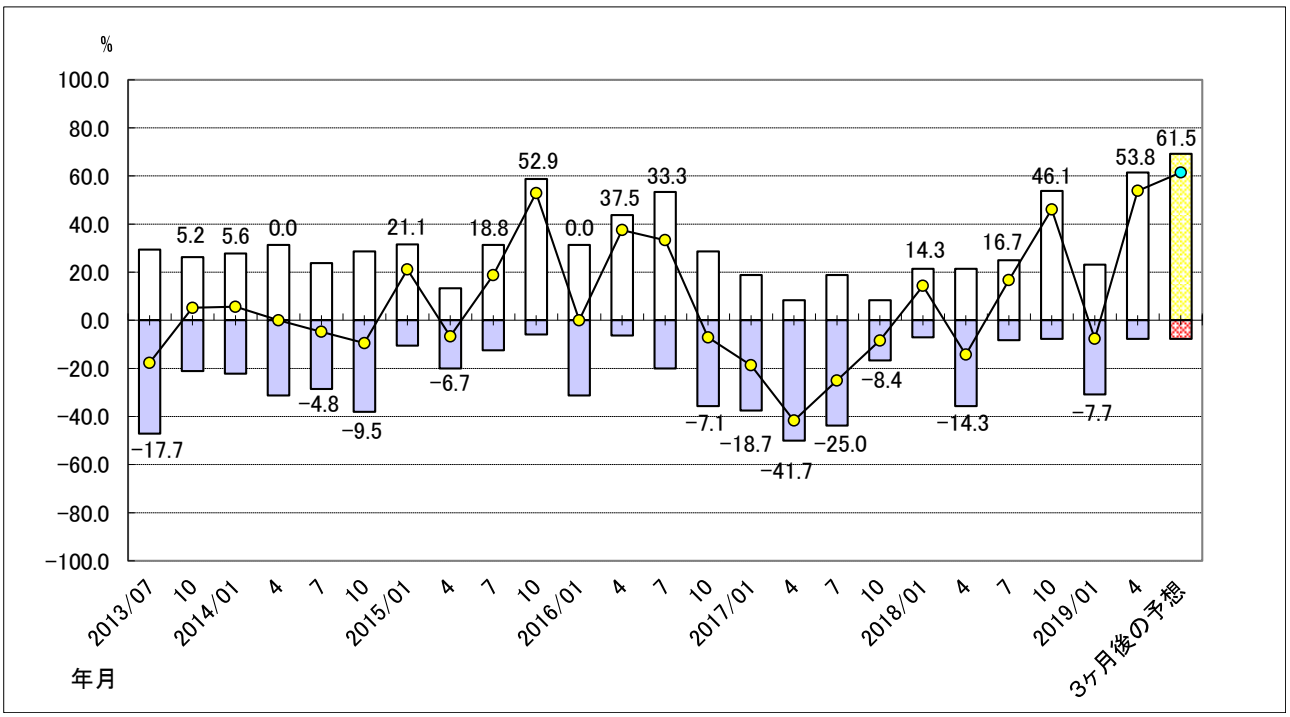
●蓼科・白樺湖富士見方面　10 連休は満室状態になった施設が多く、好調に推移した。 一方で、人手不足で、連休は積極的な誘客をしないペンションも見られる。また、寒暖差が大きかったことで、山野草への影響が心配された。

●諏訪大社　上社・下社合わせた４月の参拝者数は約７万２千人で、前年同月比約１万２千人増加(20.8%)した。

業況、売上、宿泊客　表－5

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業　況	13	53.8	23.1	23.1	30.7	13	61.5	30.8	7.7	53.8	13	69.2	23.1	7.7	61.5
客単価	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	30.8	61.5	7.7	23.1	13	46.2	46.2	7.7	38.5
宿泊客数	13	53.8	15.4	30.8	23.0	13	53.8	38.5	7.7	46.1	13	53.8	38.5	7.7	46.1

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移　グラフ－9



3.建設業

「3ヵ月前」と比べた収益性DIは5.0で前回の△11.1から改善し、外注発注量DIも△5.3で前回の△11.1から改善した。資金繰りDIは前回の5.6から0.0へ悪化した。「前年同期比」では、業況判断DIは△5.0で前回の△5.6とほぼ同様だが、受注状況DIは前回の△16.6から△20.0へ悪化した。「3ヵ月後」の予想DIは、受注状況が△10.0(前回5.6)で悪化し、業況判断も△5.0で前回の0.0から悪化した。諏訪地方の2018年4月～2019年3月の新設住宅着工戸数は持家721戸、貸家274戸、分譲75戸、給与72戸で、合計1,142戸となり、前年同期比で43戸、3.9%増加した。

●建築工事

諏訪地方の2019年3月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市16戸、諏訪市80戸、茅野市25戸、諏訪郡9戸の合計130戸だった。長野県全体の3月の新設住宅着工戸数は988戸で、前年同月比6.5%増加した。持家は6ヵ月連続の増加、貸家は3ヵ月連続の減少、分譲は2ヵ月ぶりの増加となった。

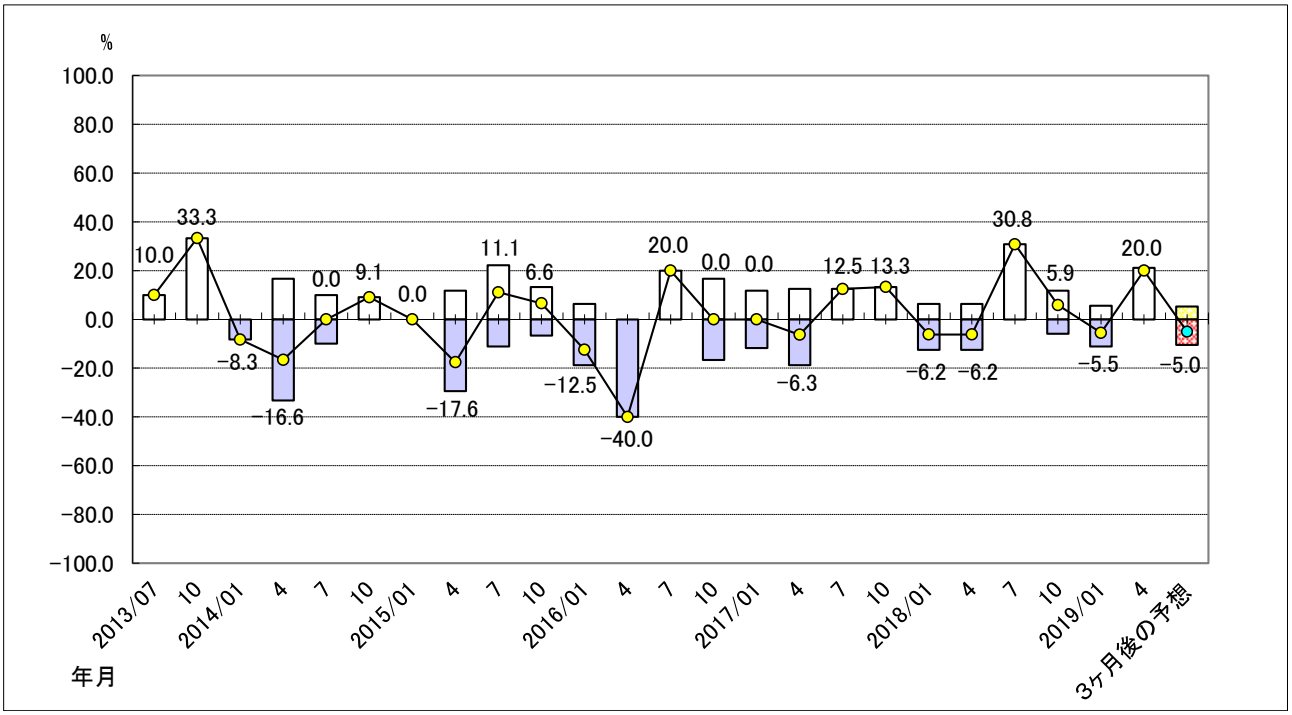
●公共工事

4月の市町村からの受注工事は、建築工事0件、土木・水道工事35件541百万円、その他工事18件177百万円だった。資材の高騰や人手不足で、積極的な獲得に動けないという声がある。

業況、受注状況、外注発注量　　表－6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業　況	20	20.0	80.0	0.0	20.0	20	10.0	75.0	15.0	-5.0	20	5.0	85.0	10.0	-5.0
受注状況	20	25.0	65.0	10.0	15.0	20	10.0	60.0	30.0	-20.0	20	10.0	70.0	20.0	-10.0
外注発注量	20	10.5	73.7	15.8	-5.3	20	15.8	57.9	26.3	-10.5	20	10.5	89.5	0.0	10.5

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移　　グラフ－10

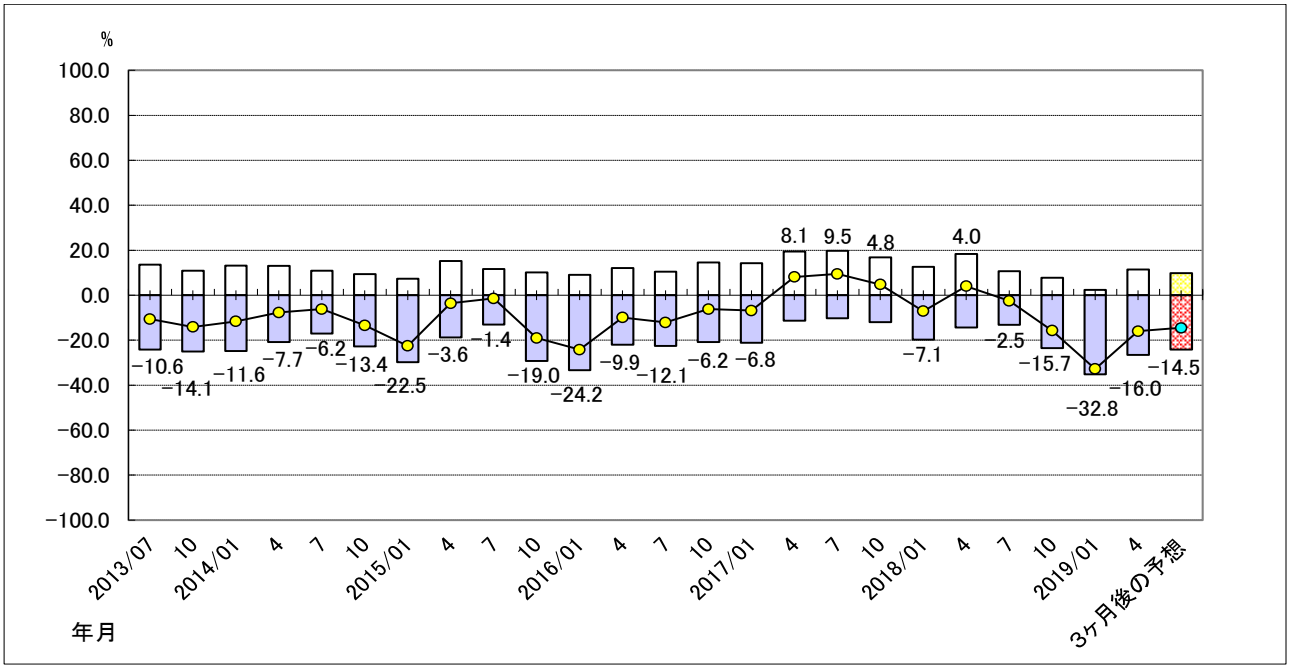


4.収益性状況

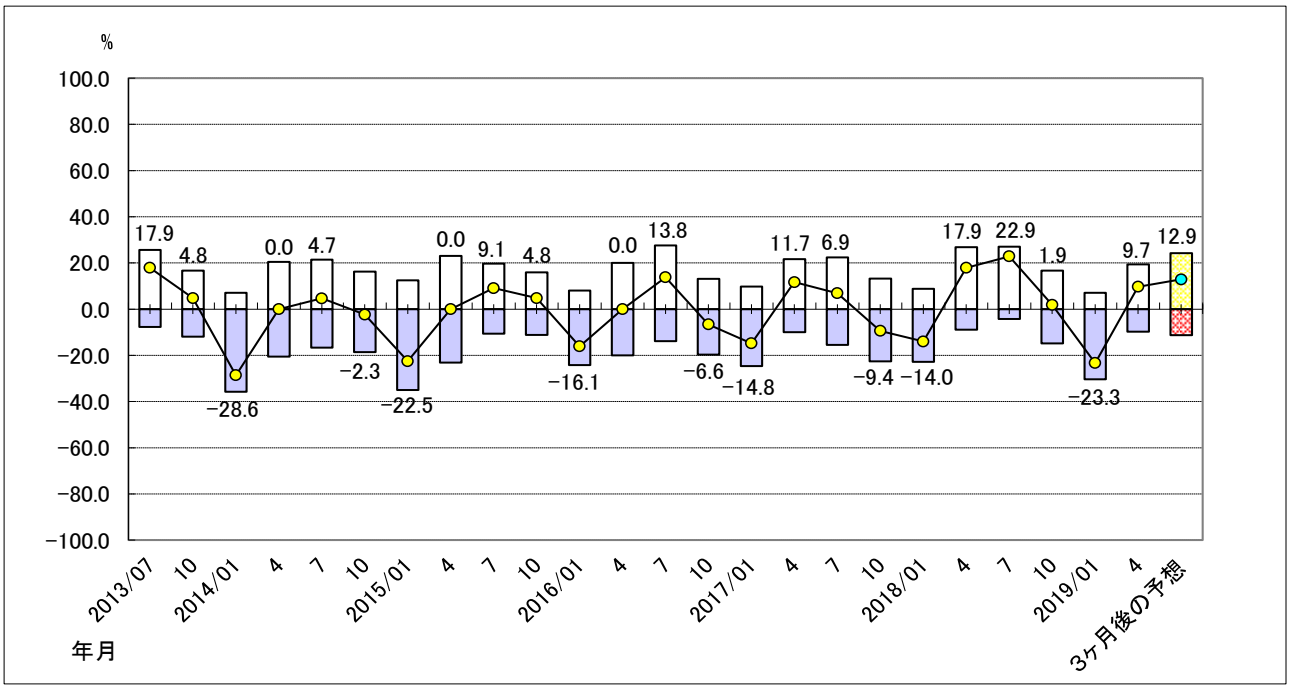
回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 13.5%、「悪化」企業 21.2%で、同DIは△7.7 と前回調査時の△29.7 から改善した。「前年同期比」も△17.1 で、前回△23.6 より改善している。製造業は「3ヵ月前」と比べで△16.0 で前回の△32.5 より 16.5 ポイント改善し、非製造業は 9.7 で前回の△23.3 より 33.0 ポイント改善している。

「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が△14.5 で前回の△19.1 よりやや改善し、非製造業も 12.9 で前回の 1.8 から改善している。回答全社では△5.7 で、前回の△12.7 より改善した。

●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI　　グラフ－11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI　　グラフ－12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と売上減少③建設業は労働力確保と競争激化④観光・サービス業は労働力確保、人件費、資金繰りとなっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売上減少	87	69	11	4	3
単価引下げ	27	19	3	2	3
競争激化	41	23	10	7	1
資金繰り	32	23	2	2	5
人件費	46	29	6	6	5
労働力確保	85	54	12	12	7

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標			実 数	前年同期比
有効求人倍率【3月】		ハローワーク諏訪	1.69 倍	0.01 ポイント
手形交換高 【4月】（諏訪手形交換所扱）		枚 数	4,180 枚	△415 枚
		金 額	6,420 百万円	△707 百万円
	うち不渡り発生状況	枚 数	0 枚	0 枚
		金 額	0 千円	0 千円
車庫証明取扱件数【4月】（諏訪地方合計）			919 件	3.5 %
新設住宅着工戸数【2018年4月～2019年3月】(諏訪管内)			1,142 戸	3.9 %

7.調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

① 調査期間　2019 年 4 月末。

② 調査内容　「2019 年 4 月末」の実績と、「3 ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3 ヵ月後」の予想。

③ 調査方法　アンケート調査およびヒアリング調査（約 130 社）。

④ 回答企業数　193 企業。

⑤ 回答率　77.2%。

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	170	40	20	20	250
回 答 数	131	27	20	13	193(その他2)